

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
管理機関名 徳島県教育委員会
代表者名 教育長 榎 浩一

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 徳島県立城西高等学校神山校
学校長名 阿部 隆
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

地域で学び地域と育つ神山校～中山間地の地域内循環モデルの構築～

4 研究開発概要

次の項目を、神山校を中心としたコンソーシアムと連携して取り組む。

- (1) 「神山創造学」の再構築 (2) 地域性を生かした質の高い教育環境の整備
(3) 地域の生産・交流拠点の創出 (4) 地域を学びの場とした実践

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
前田 洋一	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 高度学校教育実践専攻 教授	学識経験者 カリキュラム開発, 学 校組織マネジメント

鎌田 磨人	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授	学識経験者 生態系管理工学
向井 理恵	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授	学識経験者 食品化学, 栄養化学
松山 隆博	徳島文理大学保健福祉学部 准教授	学識経験者
高田 研	都留文科大学教養学部 特任教授	学識経験者
隅田 徹	株式会社プラット・イーズ 会長	学識経験者
中山 竜二	認定特定非営利活動法人 グリーンバレー 理事長	学識経験者
高橋 博義	神山町教育委員会 教育長	関係行政機関の職員
久保 素弘	城西高等学校神山校 学校評議員	学校教育に専門的知識を有する者
佐山 哲雄	徳島県教育委員会学校教育課 回帰創出・消費者教育担当 室長	関係行政機関の職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名	
徳島県教育委員会	教育長	榎 浩一
徳島県立城西高等学校神山校	校長	阿部 隆
神山町	町長	後藤 正和
一般社団法人神山つなぐ公社	代表理事	馬場 達郎
株式会社フードハブ・プロジェクト	共同代表取締役支配人	真鍋 太一
徳島大学	学長	野地 澄晴
鳴門教育大学	学長	山下 一夫
大正大学	学長	高橋 秀裕
株式会社えんがわ	代表取締役社長	隅田 徹
Sansan株式会社	代表取締役社長	寺田 親弘
認定特定非営利活動法人グリーンバレー	理事長	中山 竜二
神山町林業活性化協議会	会長	後藤 正和
特定非営利活動法人里山みらい	理事長	佐々木 宗徳
神山町下分保育所	所長	楠 貴代
神山町広野保育所	所長	西橋 宏子
神山町神領小学校	校長	楠 達也
神山町広野小学校	校長	河上 正信
神山町神山中学校	校長	高橋 敬治

8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	尾崎 士郎	鳴門教育大学 特命教授	報償費
カリキュラム開発専門家	安永 潔	四国大学経営情報学部 准教授	報償費
カリキュラム開発専門家	佐野 恵里	徳島県教育委員会 学校教育課 高校教育・GIGA担当 指導主事	なし
カリキュラム開発専門家	中川 望	徳島県教育委員会 学校教育課 回帰創出・消費者教育担当 指導主事	なし
地域協働学習実施支援員	森山 円香	一般社団法人神山つなぐ公社 理事 ・ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	秋山 千草	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	梅田 學	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	樋口明日香	株式会社フードハブ・プロジェクト 食育係	社会人講師

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)プロジェクトチーム会議※1	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
(2)カリキュラム開発等専門家会議※2									○			
(3)コンソーシアム会議※3				○			○				○	
(4)運営指導委員会											○	

※1：事業を効果的に実施するための中核となる組織で、研究開発の内容や進め方、コンソーシアムを構成する各組織との連携方法などについて協議する。

※2：カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員，学校教職員（代表者 6 名）が参加し，カリキュラム開発及びプロジェクトマネジメントに関して協議する。

※3：コンソーシアム構成員，カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員，全学校教職員が参加し，全体会と分科会により効果的な連携についての意見交換や共通理解を図る。

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法

プロジェクトチーム会議等において，事業全般を見通しての指導助言や事業管理，大学連携や研究開発の方向性の提案等を行った。

②コンソーシアムの構成

コンソーシアムは，地元神山町，町内にある公立の保育所，小・中学校，企業，NPO 法人や林業活性化協議会などといった地域の行政・教育・産業の各分野の関係者の他，農業や地方創生を専門とする大学教員，官民協働の神山つなぐ公社やフード・ハブ・プロジェクトから構成している。特に神山つなぐ公社及びフード・ハブ・プロジェクトからは，プロジェクトチーム会議の構成員や地域協働学習実施支援員として本事業に関わった。

③カリキュラム開発等専門家及び地域協働活動実施支援員の配置

- ・カリキュラム開発等専門家として，農業や高校教育の専門の立場として大学教員 2 名，徳島県教育委員会から 2 名を配置した。
- ・地域協働活動実施支援員として，神山つなぐ公社から 3 名，フード・ハブ・プロジェクトから 1 名配置した。

④管理機関による主体的な取組

- ・令和 3 年度は地域協働学習実施支援員全 4 名を社会人講師として雇用した。
- ・神山校の取組を参考に，徳島県独自に「ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業」を令和 2 年度から 2 年間実施し，地域との協働・連携により高校教育の質の向上や魅力化を進める高校として 3 校を指定して地域との連携・協働を進める取組を支援した。
- ・現在のコンソーシアムの構成員を中心に学校運営協議会委員に任命し，コミュニティ・スクールとして引き続きコンソーシアムによる地域との連携・協働を進める。
- ・地域協働学習実施支援員を引き続き徳島県が社会人講師として雇用する。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和3年4月1日～令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」におけるフィールドワーク			○	○								
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」における活動報告				○			○					
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」によるプロジェクト活動			○	○		○	○	○	○			
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」による活動報告				○				○			○	
「課題研究」における活動（環境デザインコース・食農プロデュースコース）			○	○	○	○	○	○	○	○		
キャリア教育充実における仕事体験					○		○		○			
キャリア教育充実におけるインターンシップ					○							
キャリア教育充実における講話			○	○					○			
他教科等と関連させた指導			○	○			○	○				
基礎学力の強化のための「学びの基礎診断」		○								○		
地域性を生かした「専門人材の配置」								○	○			
地域性を生かした「スタディーツアー」							○					
地域の生産・交流拠点としての「シードバンク」			○	○			○					
地域の生産・交流拠点としての「校庭マルシェ」								○				
地域を学びの場としての「森林ビジョン」			○		○		○					
地域を学びの場としての「耕作放棄地対策」				○	○	○	○	○	○			
地域を学びの場としての「石積み修復」				○	○	○	○	○	○			
神山創造学での副読本制作			○	○		○	○					
コンソーシアム会議			△				△					△
運営指導委員会												△
カリキュラム開発等専門家									△			
コンソーシアムプロジェクトチーム会議	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○ 「神山創造学」の再構築

「神山創造学Ⅰ」では、生徒が町内のフィールドワークを通じて、歴史・文化・暮らし・産業などの調査を行った。「神山創造学Ⅱ」では、地域の行政機関や地元企業と協働して、課題解決に向けたプロジェクト学習に取り組んだ。増設2単位分で、耕作放棄地の有効利用について実施し、石積み修復や景観修復、地域性種苗の栽培と加工、商品開発に取り組んだ。そして3年次での「課題研究」に発展できるよう、活動内容報告会を年間2回実施した。

○ 地域性を生かした質の高い教育環境の整備

造園教育での高度資格取得に挑戦するため、県造園協会から講師を招聘しキャリア教育における資格取得の向上や、耕作放棄地対策についての取組を雑誌編集経験者やフリーライターから指導助言を受け学校設定科目副読本を作成した。スタディーツアーでは、山と海のつながりを知るため海陽町で生徒研修を実施した。また、カリキュラム開発等専門家の指導助言を受け、校内ほ場の有効活用について、コースごとのビジョンを共有し考えることができた。

○地域の生産・交流拠点の創出

地域性種苗のコムギとソバを栽培し、校内で種を保管できるようになった。また、「道の駅神山」で農産物や花苗の販売、課題研究成果発表と「神山創造学Ⅱ」のチームプロジェクトを実施する場としてイベントを実施した。学校防災クラブの炊き出し訓練の実施と城西高校農業科も参加して合同開催となったので、来場者も多く、活動発表の機会に恵まれた。

○地域を学びの場とした実践

学校の演習林や、町内の耕作放棄地や石積み修復を学びの場として、教科書や実習で学んだことを生かした様々な取組を実施した。森林ビジョンでは、町と連携し1年生が林業研修を実施した。耕作放棄地の取組は、「神山創造学Ⅱ」増設2単位分の活動に位置づけて取り組み、コース学習の要となって意欲的に活動する生徒の姿が見られた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

○「神山創造学Ⅰ」（2単位）第1学年対象 ※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員3名，1学年担任1名，地域協働学習実施支援員1名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」（各学期末）定期考査

学習内容：・「神山創造学」を学ぶにあたって ・地域の現状を学ぶ
・地域の課題解決に向けた取組み ・職業体験プロジェクト
・聞き書きプロジェクト ・調査のまとめと発表

○「神山創造学ⅡA」（4単位）第2学年環境デザインコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員4名，2学年担任1名，地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」（各学期末）定期考査

学習内容：・チームプロジェクト（課題調査，課題解決の実践など）
国際交流，神農祭，神山PR，地域貢献，環境保全の5チーム毎
に実施 ・まめのくぼプロジェクト（景観創造活動）
・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「神山創造学ⅡB」（4単位）第2学年食農プロデュースコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員4名，2学年担任1名，地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」（各学期末）定期考査

学習内容：・まめのくぼプロジェクト（景観修復・6次産業化学習活動）
・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「課題研究」（4単位）第3学年対象

教科「農業」の科目，総合的な学習（探究）の時間の代替科目

指導体制：農業科教員3名，3学年担任1名，地域協働学習実施支援員1名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」
 評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」
 主な内容：・課題の設定 ・調査・研究・実験・作品製作等 ・中間発表
 ・課題研究「実践集」原稿作成 ・課題研究発表会

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- 「フードデザイン」（2単位）第2学年対象 「神山創造学ⅡB」と関連した指導
 - ・小麦の素材要素について学習し，栽培と生活文化の関連性について考えた。
 - ・地域性種苗の重要性と商品開発の可能性について地域の食品製造企業の方から，焼き菓子製造を通して6次産業化に関する学習を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム編成チーム（教頭，教務主任，農場長，地域協働学習実施支援員）において，次年度の教育課程，教員の配置，教科横断的な学習，各教科評価方法，教科間の接続内容や効果等について協議し，実施した。また，コンソーシアム会議で本校教員全員が分科会ごとに協議に加わり，コンソーシアムメンバーへ本校教育活動を報告し共有していくことで，生徒の実態に合わせた地域との協働が推進できるようになった。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

研究開発事務局は，企画運営担当，大学連携担当，企業連携担当，広報推進担当，経理担当の5チームからなり，組織的な取組となるように，企画・立案や推進体制について教員全体で共有した上で検討を行い，実施に当たっては管理職が各チームの調整や監督を行った。

⑥カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習支援員の学校内における位置付けについて

○カリキュラム開発専門家の学校内における位置付けについて

氏名	所属 職名	専門分野
尾崎 士郎	鳴門教育大学 特命教授（謝礼支払い）	技術教育，木材加工 等
安永 潔	四国大学 経営情報学部 准教授（謝礼支払い）	前学校長，農業教育 等
佐野 恵里	徳島県教育委員会学校教育課 高校教育・G I G A 担当 指導主事（支払いなし） ※コンソーシアムプロジェクトチームに参加	高校教育，教育課程，国語科教育 等
中川 望	徳島県教育委員会学校教育課回帰創出・消費者教育担当 指導主事（支払いなし）	キャリア・消費者教育，農業・水産教育 等

○地域協働学習支援員の学校内における位置付けについて

氏名	所属 職名 役割	雇用形態
森山 円香	一般社団法人神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当，地域協働学習実施支援員チーフリーダー	社会人講師として週4時間勤務
秋山 千草	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師として週2時間勤務
梅田 學	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師として週4時間勤務

樋口 明日香	株式会社フードハブ・プロジェクト食育係	社会人講師として 週4時間勤務
--------	---------------------	--------------------

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

毎月のプロジェクトチーム会議において、本事業の実施状況や今後の進め方、研究成果の振り返りと評価を管理機関からの指導助言をいただきながら実施し、学校長の判断・指示を仰いだうえで研究開発を進めた。

当該年度の取組について、生徒・教職員による自己評価、運営指導委員会からの指導助言、学校評価委員会からの評価、コンソーシアムメンバーからの指導助言等も踏まえて、事業遂行に関する課題を設定し、計画の修正を行うなどの改善を行った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

カリキュラム開発等専門家会議において、「神山創造学ⅡA、B」について学習の深化を図る計画と地域における耕作放棄地の新たな環境整備、現有実習地の効果的利用について協議を行った。コンソーシアム会議では、カリキュラム開発等専門家からの意見を踏まえて分科会を設定し、キャリア教育や農業教育等の本校教育活動において地域とどのような連携・協働が可能になるかを協議した。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言に関する専門家からの支援について

運営指導委員会において、学習評価の方法や脱炭素化を取り入れたSDGSに関する学習方法の提案、町内の保小中との農業を通じた連携等について指導助言をいただいた。特に「体験の経験化」について、体験させる前に課題を考えさせ課題体験型学習とすることで経験として積み重ねていき、その経験がまた次の体験につながるように課題を設定して考えさせていくことの重要性を全職員で共有し、日頃の学習活動で意識をしながら取り組むようになった。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

「神山創造学」及び「課題研究」では、生徒が町内でのフィールドワークを通して、地域の人との関係性を育み、地域で受け継がれてきた文化、仕事、産業について調査や研究を深め、そして地域の課題に気づき、それらを基にして本人が探究したいテーマを設定し解決していくことを学んでいる。3年間で地域の人と関わっていくことや、地域内の環境、食農、経済における地域内循環システムを自らが体験することで、地域の一員として具体的に果たすべき役割を自覚し、課題研究で学んだことを将来の進路に生かせることができた。今後は神山創造学での学びについて、地域と協働することを視点において研究課題を改善することで、生徒の研究実践の取組を地域内で共有することができ、定期的に地域からの点検・評価を受けながら、機動性のあるコンソーシアム組織として継続させていく。

⑪成果の普及方法・実績について

○課題研究発表会の開催についてのチラシの作成・地域への配布を行うとともに、課題研究報告集の編集を行った。

※配布先（本校教職員20名、本校生徒85名、R4新入生30名、発表会参観者40名）

○学校ホームページに研究開発の取組内容を掲載し、閲覧者数を伸ばすことができた。

○社団法人神山つなぐ公社主催の「神山つなぐプロジェクト報告会」において研究開発の取組内容や、これまでの町との連携事業の成果を発表し、参加者に理解を得ることがで

きた。

○今年度の研究開発を行った内容を冊子として編集し、関係機関等に配布する。

※配布先（本校教員20名、本校生徒56名、新入生30名、コンソーシアム18名、運営指導委員8名、カリキュラム開発等専門家2名、地域協働学習実施支援員4名、地域魅力化型指定校19校、県内の公立高校等45校、県教育委員会25冊）

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定

- ① 本事業に関連する活動での学びを生かして自らの進路を実現する生徒の割合44%（目標値50%）
- ② 自分たちの取組が地域貢献につながっていると感じる割合79%（目標値80%）
- ③ 高校時代を過ごした地域で働いたり暮らしたい、あるいはその地域に将来的に関わりたいと考える生徒の割合56%（目標値80%）
- ④ 新入生の体験入学参加者割合53%（目標値90%）

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

- ① 校庭マルシェ開催回数1回（目標値4回）、森林ビジョンと連携した演習林実習の実施回数8回（目標値5回）、孫の手プロジェクトにおける石積みの修復に関する依頼を受けた件数0件（目標値2件）、石積み実習の実施回数12回（目標値4回）、コース研修の実施回数1回（目標値2回）
- ② 研究活動の発表回数3回（目標値10回）
- ③ 本構想に関する教員研修の実施回数4回（目標値3回）、本構想に関する研究授業の実施回数2回（目標値1回）

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標

- ① スタディツアーの実施回数0回（目標値2回）、コンソーシアム活動回数3回（目標値4回）、耕作放棄地対策活動回数48回（目標値10回）、生産・保管している在来種・固有種の品種の数37種（目標値40種）
- ② ホームページでの取組紹介33回（目標値10回）

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

本事業3年間を終えて、生徒自身が地域で学び地域で育っていくための地域内モデルの構築ができた。それと同時に、課題探求型学習において、自ら学びを進め、神山校で育てる力「伝える力・深める力・協働する力」が身についたとする生徒が80%となった。多くの生徒が学校設定科目「神山創造学」における1年次のフィールドワークや仕事体験、2年次のチームプロジェクトを通して、主体的に課題を見つけ解決に向かう学び方を経験として蓄積する結果につながった。

一方で、「地域内での学び」の面では「伝える・協働する」を育てるプログラムは構築できたが、「深める」面で個々の生徒に応じた指導方法を研究していく必要がある。「地域内で育てる」面では、環境デザインコースでの学びを生かした進路（林業・造園関係）へ進む生徒は増加傾向にあるが、食農プロデュースコースでは学びを生かした進路につなぐことができていないことが

挙げられる。また、本事業3年間でのコンソーシアム体制の継続も課題となってくる。改善点として、生徒に個々に応じた「深める力」を身につけさせるプログラムの作成、食農プロデュースコースでの学びを生かした進路先の確保を行っていくことと施設設備面の充実を行い、専門的知識・技術の習得を図ることができる環境整備の必要がある。

コンソーシアムの維持については、次年度から開始する学校運営協議会（コミュニティースクール）を母体とした地域連携部会の中で、地域と協働したプロジェクトや地域の課題解決に向けた活動を計画実施し、神山町創生プロジェクトの内容に照らし合わせた活動を行い、地域との協働を主軸においた教育活動を行っていく。

【担当者】

担当課	徳島県教育委員会学校教育課	TEL	088-621-3137
氏名	佐野 恵里	FAX	088-621-2882
職名	高校教育・GIGA担当指導主事	e-mail	sano_eri_1@pref.tokushima.lg.jp